



ALPS処理水の処分に関する 安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2026年3月

販促・魅力発信

ケースで学ぶブランド化「魚種変化対応へのヒント オンラインセミナー」の開催

- 魚種変化に対応する商品開発・ブランディング等に課題を抱える三陸・常磐地域の水産加工業者が、高付加価値な商品開発・ブランディングを実現するため、知的財産権やマーケティング等の専門家による伴走支援を実施し、成果や課題を整理・分析。
- 令和8年3月にオンラインセミナーを開催し、伴走支援で得られた工夫や課題、学びを共有。三陸・常磐地域の水産加工業者、支援機関を中心に約50名が参加。
- 開催日：令和8年3月5日(木) 場所：オンライン配信
- 魚種変化への具体的対応力の向上と、商品・ブランドづくりの実務に資する機会の提供を行った。



セミナーの様子

①パネルディスカッション

テーマ1：伴走支援による取組概要と今後の課題について
テーマ2：魚種変化への対応とこれからの事業展望

②知的財産権に係る講演

魚種変化対応における知財活用のおすすめ
～今回の伴走支援事業を参考に～



●動画は経済産業省YouTubeでご覧いただけます。

<https://youtu.be/VfhcAnIC-kc>



伴走支援の概要

- (有)三陸とれたて市場（岩手県大船渡市）
海外飲食店向けにグローバルブランド化を図るため、社名やブランド名等の刷新検討を支援
- マルサン松並商店(株)（宮城県塩竈市）
BtoC分野の経験不足を補い、選ばれる高付加価値商品として「炙り鯛めしの素」の開発支援
- (株)おのざき（福島県いわき市）
三陸・常磐ものと福島の酒粕を組み合わせた漬け魚商品「蔵粕海(くらかすみ)」シリーズ開発とロングセラー化支援



蔵粕海
「カキの酒粕漬け」



伴走支援の様子

- 2月20日～3月1日の10日間、埼玉県蓮田市の東北自動車道蓮田サービスエリア（上り線）にあるPasar蓮田にて、相双機構の主催で、**福島県の水産加工品の販売会である「ふくしま常磐大漁市」を出店。本イベントが高速道路のSA・PAに出店するのは今回が初めて。**
- 本イベントでは、**福島県の水産加工業者等16社の商品78品を販売。**また、カネセン水産の「味付きつまみたこ」や岩下商店の「さつま揚げ」などの試食を実施。
- 開催期間中は多くのお客様にご来場いただいた。高速道路を使われる方だけではなく、SA付近にお住まいの地元の方が複数回ご来場されるケースも多く見受けられた。お客様からは「つまみたこを食べてみたら美味しかった。」「ここで美味しい海苔が買えるのは助かる。」「地元が福島。懐かしいものが置いてある。」「震災の頃から気にしている。福島を応援している。」など、多くの応援の声をいただいた。風評等は全く感じられなかった。

ふくしま常磐大漁市 in Pasar蓮田（蓮田市）



会場の様子



試食の様子

- 2月18日～20日、**食品流通業向けで国内最大級の商談展示会「第60回スーパーマーケット・トレードショー2026（SMTS2026）」が開催され、ジェトロはこの機会を捉え、日本産農水産物・食品の調達に意欲的な16カ国17名の食品バイヤーを招へいた。**
- 18日、19日にSMTS出展者を中心とする日本企業とバイヤーの間で食品輸出商談会を実施。さらに20日にバイヤーがSMTS出展者ブースを訪問する形式での商談機会を設けた。**食品輸出商談会では、岩手県、宮城県の水産・水産加工事業者が参加、ホタテ、ウニ等の食品を対象に商談が行われた。**

日本最大級の食品流通業向け商談展示会SMTS2026の機会を捉え輸出商談会を実施

■ ジェトロ食品輸出商談会 at SMTS概要

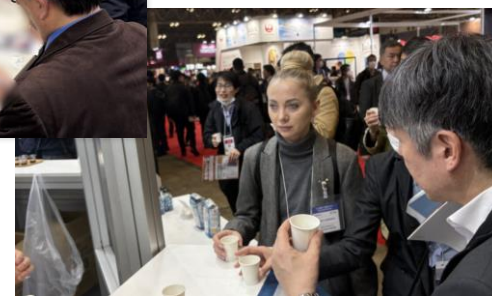
- ・日程：2026年2月18～19日、会場：幕張メッセ国際会議場
- ・参加者数：岩手県2社、宮城県1社の水産・水産加工事業者を含む236社
- ・招へいバイヤー：16カ国17名（米、英、仏、中、韓、ブラジル、メキシコ、ウクライナ、デンマーク、タイ、カンボジア、フィリピン、インド、UAE、モロッコ）
- ・主な三陸産等の水産関連商談品目：ホタテ、タコ、ウニ、金目鯛、茎ワカメ、サーモン、サーモン加工品

■ 主な評価

- ・水産品について原材料より加工品にバイヤーの興味は移行している様子。原材料から完成品まですべて日本製との点について、バイヤーに興味を持って貰えた。
- ・商品ごとに規格書を提示すると、すぐに受注につながると感じた。
- ・輸出実績のない国のバイヤーとの商談機会が得られ、情報収集とともに今後の提案商品を選定しやすくなった。
- ・商品競争力の再確認および海外展開に向けた実践的な足掛かりを得られた。



商談風景



SMTSブースでの商談風景



招へいバイヤー集合写真

- 中小企業の経営者・後継者、支援機関等を対象とした研修施設である中小企業大学校瀬戸校、広島校、東京校の食堂において、株式会社ニコトラストと中小機構の共同実施で、「復興支援メニュー」を計132食提供した。

※瀬戸校（3/5・24食、3/13・8食）、広島校（3/6・20食）、東京校（3/11・80食）

- 今後も三陸常磐ものの消費拡大を図っていく。

復興支援メニューの提供



◀ 瀬戸校にて提供された「大船渡産さんまフライ」の定食(左)
岩手県観光パンフレット等
展示(右)



◀ 広島校にて提供された「大船渡産さんまフライ いぶりがごとタルタル」の定食(左)
岩手県観光パンフレット等
展示(右)



◀ 東京校にて提供された「気仙沼産マグロカツと宮城産いわし入りハンバーグ」の定食(左)
宮城県観光パンフレット等
展示(右)

中小企業大学校 食堂のご紹介



◀ 瀬戸校 食堂入口



◀ 広島校 食堂入口



◀ 東京校 食堂入口

栄養・ボリューム満点の食事を提供しております。
研修を受講される中小事業者・支援機関にご利用いただいています。

理解釀成

- **ALPS処理水に係るモニタリングの結果を一目でわかるマーク形式で表示**するページについて、**Yahoo!JAPANのトップページ**に**バナー広告**を掲載。

ALPS処理水に係るモニタリングページ（抜粋）

The screenshot shows a webpage titled "ALPS処理水に係るモニタリング" (Monitoring of ALPS treated water). It features a navigation menu on the left with questions like "ALPS処理水って何？ 本当に安全なの？" and "トリチウムって何？". The main content area is divided into sections: "ALPS処理水に係るモニタリング" (ALPS treated water monitoring), "ALPS処理水の分析結果" (Analysis results of ALPS treated water), and "東京電力福島第一原子力発電所近傍海域のモニタリング結果（海水・魚に含まれるトリチウム）" (Monitoring results of the area around the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant (tritium in seawater and fish)).

The "ALPS処理水の分析結果" section shows two entries for "放出完了した水" (Released water). Both entries indicate that the analysis was completed and that the results met the standards. The first entry is dated July 10th and the second is dated December 22nd. Both mention that the tritium concentration is below the standard of 1 unit.

The "東京電力福島第一原子力発電所近傍海域のモニタリング結果" section shows the current status as "異常なし" (No abnormality), with a note that the latest monitoring results are being used.

A legend at the bottom explains the symbols: a blue circle for "異常なし" (No abnormality) and a yellow triangle with an exclamation mark for "放出停止判断レベル" (Release stop judgment level). It also provides specific tritium concentration standards for seawater and fish.

Yahoo!JAPAN バナー広告

The banner features the text "みんなで知ろう。考えよう。ALPS処理水のこと" (Let's know and think about ALPS treated water together) and "周辺の海の状態はどうなっているの？" (How is the state of the surrounding sea?). The Ministry of Economy, Trade and Industry logo is visible in the bottom right corner.

The banner features the text "みんなで知ろう。考えよう。ALPS処理水のこと" (Let's know and think about ALPS treated water together) and "海水や魚は大丈夫なの？" (Is seawater and fish safe?). The Ministry of Economy, Trade and Industry logo is visible in the bottom right corner.

ページはこちら



- 「ALPS 処理水について知ってほしい5つのこと」をそれぞれ1分程度でわかりやすく解説する動画について動画広告を展開。
(動画はそれぞれ画像左下の2次元コードからご覧いただけます。)

1分程度でわかりやすく解説する動画

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



**ALPS
処理水**

動画で解説
ALPS 処理水って何？
本当に安全なの？



- ① ALPS処理水って何？
本当に安全なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



**ALPS
処理水**

動画で解説
トリチウムって何？



- ② トリチウムって何？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



**ALPS
処理水**

動画で解説
なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？



- ③ なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



**ALPS
処理水**

動画で解説
本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？



- ④ 本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



**ALPS
処理水**

動画で解説
近海でとれた魚は
大丈夫なの？



- ⑤ 近海でとれた魚は
大丈夫なの？

- 3月10日（火曜日）に、フランスのパリにおいて原子力エネルギーサミット2026が開催され、井野副大臣が出席しました。
- 今回の会議は、フランスのエマニュエル・マクロン大統領及び国際原子力機関（IAEA）のラファエル・マリアーノ・グロッシー事務局長による共催で開催され、各国から出席した首脳や閣僚級による演説が行われました。
- **井野副大臣は**、日本は、安全性の確保を大前提に、原子力を最大限活用していく方針のもと、既設炉の再稼働を進めていくこと、次世代革新炉の開発・設置に向けて研究開発支援や産業基盤の維持強化、投資環境の整備に取り組むことを発信しました。また、**福島**の復興と、**福島第一原子力発電所の安全かつ着実な廃炉に全力で取り組み、科学的根拠に基づく透明性の高い情報発信を続けることを強調**しました。そして、原子力を安全かつ持続的に進めるためには、原子力安全・核セキュリティ・核不拡散を確保しつつ、国際的な協力が不可欠であること等について発信しました。



【経済産業省】井野経済産業副大臣が原子力エネルギーサミット2026に出席しました

<https://www.meti.go.jp/press/2025/03/20260312001/20260312001.html>

- **井野副大臣**から、ALPS処理水の海洋放出に関する安全性レビューなど、グロッシー事務局長のリーダーシップに敬意を表するとともに、**IAEAの国際安全基準に基づく客観的な活動は重要であり、日本として引き続きIAEAと協力していきたい**と述べました。
- **グロッシー事務局長**から、IAEAの責務として、**客観的な立場で関与することで原子力に対する信頼性を確保することは重要**であり、原子力の安全な利用を推進していくために、**引き続き日本と緊密に連携していきたい**との発言がありました。



井野副大臣とIAEAのグロッシー事務局長

【経済産業省】井野経済産業副大臣が原子力エネルギーサミット2026に出席しました

<https://www.meti.go.jp/press/2025/03/20260312001/20260312001.html>

安全確保

東京電力

○海水中トリチウムを測定

- 放水口周辺 4 地点毎日、その他 6 地点で週 2 回（放出期間中）、放水口周辺 4 地点週 1 回、その他 6 地点で月 1 回（放出停止期間中）迅速分析を実施。

水産庁

○水産物は年約380検体でトリチウムを測定

- ①放水口の北北東へ約 4 km、②放水口の南南東へ約 5 kmの **2 地点で、週 4 回迅速分析を実施**（放出のない期間は週 1 回）

環境省

○海水中トリチウムを測定

- 放出期間中、放水口近傍 3 地点で期間中 2 回、その他沿岸 20 地点で期間中 1 回、迅速分析を実施。

(参考) 原子力規制庁

○海水中トリチウムを精密分析にて測定。

- 20km以上離れた海域や、宮城県沖南部、茨城県沖北部でも、精密分析を実施。



- 2022年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民報、福島民友、岩手日報、河北新報、茨城新聞）に広告を掲載。**
- 本年3月は2回掲載しており、今後も**月1～2回の頻度で継続的に実施を予定。**

新聞への広告掲載内容（左上：モニタリング状況のお知らせ、右下：1号機原子炉建屋上部を覆う大型カバーの設置が完了）

TEPCO

広告

福島第一原子力発電所「周辺海域のモニタリング状況」のお知らせ (2026年3月)

東京電力ホールディングスは2022年4月から、発電所近傍や福島県沿岸の海域において、トリチウムを含む放射性物質の監視(モニタリング)を強化しています。

海域モニタリングにおけるトリチウム濃度は、運用上の指標(放出停止判断レベル:700ベクレル/l)を大きく下回り、計画どおり安全に放出できていることを確認しています。引き続き、ALPS処理水の海洋放出における安全性の確保に万全を期してまいります。

エリア	海水の測定結果 [単位:ベクレル/l] (2026年2月1日~2月末までに得られた測定結果の最大値)	
	3km圏内	20km圏内
トリチウム	2.4	2.2
セシウム134**	検出せず(<0.97)	検出せず(<0.0014)
セシウム137**	検出せず(<0.92)	0.0092

【参考】トリチウム濃度の比較

単位:ベクレル/l

- 60,000 国の規制基準(排水口)**
- 10,000 世界保健機関(WHO)飲料水・水質ガイドライン
- 700 放出停止判断レベル** (発電所から3km以内)
- 350 調査レベル** (発電所から3km以内)

* <の右側の数値は検出下限値。検出下限値を下回った場合は、検出せずと記載
**1:福島県周辺海域における過去の実測値は、セシウム134:0.000051ベクレル/l、セシウム137:0.00029ベクレル/l、トリチウム:0.45ベクレル/l(日本国内の調査結果に基づく) 撮影:2019/4~2022/3

海域モニタリングの結果

当社が測定した海水や海産物の放射性物質濃度に、**有意な変動は確認されません。**
詳細は当社ホームページをご覧ください。
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/monitoring/>

包括的モニタリング調査システム(ORBS)

当社以外の各機関(環境省、水産庁、原子力規制委員会、福島県)が測定した海水および水産物の放射性物質濃度も**有意な変動は確認されません。**
詳細は各機関の分析結果を一元的に確認できるORBSをご覧ください。
<https://www.monitororbs.jp/>

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.54

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「燃料・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

2026年1月19日に、1号機原子炉建屋上部を覆う「大型カバー」の設置が完了しました。

▶1号機の使用済燃料プールからの燃料(392体)取り出しに向けて、放射性物質を含むダストが周辺へ飛散しないよう、原子炉建屋上部を覆う「大型カバー」の設置が完了しました。

▶現在、大型カバー内では、オペレーティングフロアにある屋根材などのガレキを撤去する作業の準備を進めており、早ければ2026年4月頃に開始する予定です。

▶引き続き、燃料取り出し開始(2027~2028年度)に向けて、安全を最優先に作業を進めます。

1号機外観大型カバー設置前(撮影日:2022年7月15日)

1号機外観大型カバー設置後(撮影日:2026年1月16日)

1号機原子炉建屋 縦断面図

【使用済燃料プールからの燃料取り出し工程】

現在

STEP1 大型カバー等設置 → STEP2 がれき撤去等 → STEP3 屋根・屋根材 → STEP4 燃料取り出し準備 → STEP5 燃料取り出し

開始(2027~2028年度)

1号機使用済燃料プールからの燃料取り出しに向けては、こちらをご覧ください
▶1号機使用済燃料プールからの燃料取り出し
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/removal/unit1/index.html>

1号機燃料取り出しに向けた工事の進捗についてはこちらをご覧ください
▶1-2号機燃料取り出しに向けた工事の進捗について
https://www.tepco.co.jp/decommission/information/committee/roadmap_progress/pdf/2026-050129_20-j.pdf

皆さまのご意見をお聞かせください
▶廃炉に関するご意見・お問い合わせ
<https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html>

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
〒979-1301 福島県双葉郡大熊町大字新井2-2-22